

2005年7月14日

財務大臣
谷垣禎一 殿

栃木県保険医協会
会長 戸村光宏

〇 6 年度予算案作成で社会保障予算抜本拡充の要請

拝啓

貴殿におかれましては連日、国務の重責を果たされておりますことに敬意を表します。本会は栃木県内の開業医師・歯科医師 7 3 0 人で構成する団体です。

さて報道によれば貴省は、来 0 6 年度社会保障予算を、経済成長に見合った伸びに抑制するとして、自然増分を 5000～6000 億円削減するといえます。これは社会保障の充実を何より求めている国民の願いに真っ向から背くもので、断じて認められません。日経新聞のアンケート（7 月 3 日）でも、「他の財政支出を抑制し、医療費にもっと税金を投入」すべきとの回答が 6 割を超えています。内閣府が行った世論調査でも「社会保障の充実」が 67.7%でトップとなっています。

つきましては来 0 6 年度予算作成で、医療・社会保障予算の抜本的拡充をお願いし、たく、下記の要請をいたします。

敬具

記

1. 社会保障予算の自然増分を削減しないこと

2. 医療費患者負担の軽減のために予算を措置すること

要求事項は以下のとおりです

- ・ 健保、退職者の 3 割負担を 2 割に戻すこと
- ・ 高齢者の負担上限を現物給付とするとともに、患者負担を軽減すること
- ・ 国民健康保険の保険料を引き下げるとともに、患者負担を 2 割に改善すること
- ・ 就学前までの児童を対象とした国の医療費無料制度を創設すること

以上